

葉に発生したリンゴサビダニはりんご果実に影響しない！

農林総合研究センターりんご試験場

リンゴサビダニに寄生されたりんごの葉は、一見するとリンゴハダニやナミハダニが吸汁加害されたように褐変症状を呈します。リンゴサビダニはりんごの葉に発生し、果実には寄生しません。また、リンゴハダニやナミハダニに比べてかなり小さいことなどから、リンゴサビダニが原因でりんごの葉が褐変しても見かけよりダメージが少なく、果実の大きさ、糖度及び着色などには影響しないことが分かりました。



リンゴサビダニ 体長0.20mm
縦長いくさび型



リンゴハダニ 体長0.41mm



リンゴサビダニによる葉の褐変色症状（葉柄部）

ダニ類は薬剤に対する抵抗性を生じやすいため、有効なダニ剤が少なくなってきました。このため、薬剤は被害の大きいハダニ類へ散布することとし、リンゴサビダニだけの発生であれば薬剤防除の必要はありません。

リンゴサビダニの発生の多少と「ふじ」の果実品質（平成18年度）

区	発生密度	糖度(%)	横径(mm)	重さ(g)	着色
多発	187.7	13.6	86.5	317.1	5.8
少発	26.9	12.4	85.6	313.0	5.4

- (注) 1 樹齢：8年生、台木：M.26(わい性)、収穫：11月6日
 2 発生密度は、多発区ピーク時(7月21日)の新梢中位葉1枚当たりの個体数。
 3 着色は、「ふじ用カラーチャート」(0緑～6赤の6段階)で測定。
 4 糖度、横径、重さ、着色には統計的な有意差がない。

お問い合わせ

りんご試験場病虫肥料部まで(Tel.0172-52-2331)